

◆◆◆教材の概要◆◆◆

アメリカで生活していた野口英世は、41歳の頃に病気が重なるという不運に見舞われた。病後の静養をしていたとき、幼い頃から支えられた多くの人々を思い出し目頭を熱くする。この頃、中・南米やアフリカで黄熱病が発生し、英世は病み上がりであるにもかかわらず黄熱病研究グループの一員となり、中・南米に渡る。さらには研究に取り組んで10年ほどたった頃、西アフリカで黄熱病が再発し、衰えた体でありながらもアフリカへ渡る。疲れたからだにむち打って研究に打ち込んだが、とうとう英世自身が黄熱病にかかり倒れてしまう。高熱にうなされながら母の夢を見た英世は、夢の中で感謝の気持ちを告げ自分の人生に満足して息を引き取った。そんな英世の思いは世界中の人々に伝わり死を惜しまれた。そして「科学への貢献を通して、人類のために生き、人類のために死す」と刻まれた墓碑が建てられ英世の業績が伝えられている。

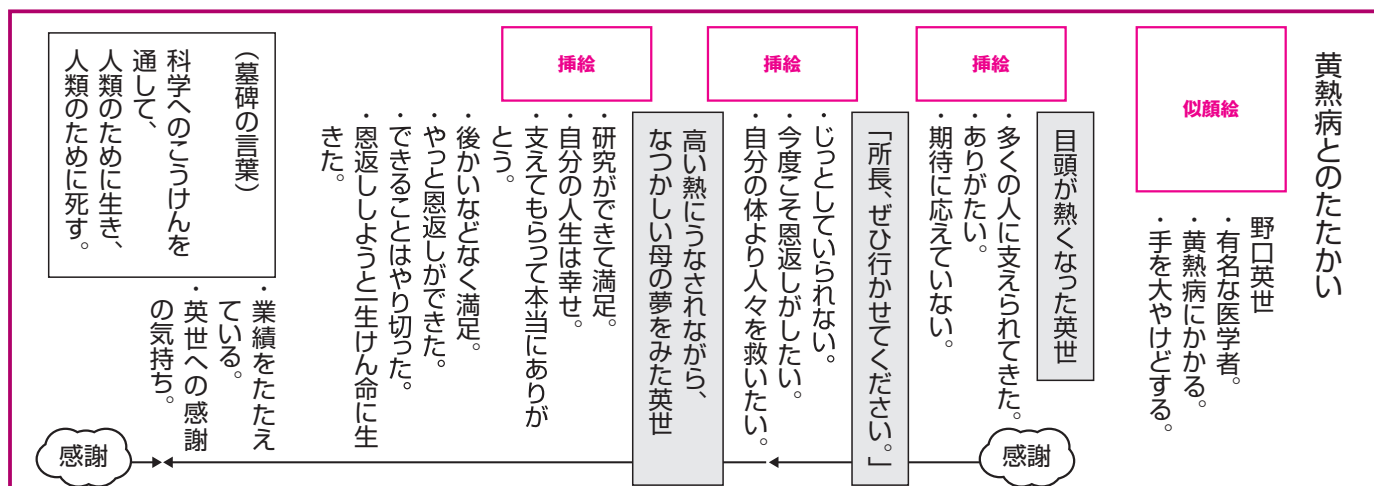
◆◆教材の活用◆◆

英世がなぜ命の危険を冒してまで黄熱病とたたかっただか・・・それは、ただ研究が好きだったからではない。自分を支えてくれた多くの人々への感謝の気持ちとそれに応えたいという英世の強い意志があったからである。黄熱病にかかり命を落とすことになっても、自分の人生に満足し感謝の気持ちを持っていた英世。そんな英世の生き様や英世の気持ちに寄りそうことを通して、感謝の気持ちの上に自分にできることは何かを考え行動に移すことの大切さを児童に感じ取らせたい。さらに、人々の期待に応え、人々のために生きようとする英世の気持ちが世界中の人々に届いたことから、感謝の気持ちが人と人との温かい関係につながっていくことにも触れ、感謝することの本当の意味について考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

高い熱にうなされながら「みなさんのおかげです。」と言った言葉には、英世のどんな思いが込められているのでしょうか。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆ 道德的価値 “尊敬・感謝” について ◆◆◆

よい人間関係を築くためには、互いを認め合うことが大切であるが、その根底には相手に対する尊敬と感謝の念が必要である。人々に支えられ助けられて自分が存在するという認識に立つとき、相互に尊敬と感謝の念が生まれてくる。高学年の段階においては、感謝の対象が人のみならず、多くの人々の支え合いや助け合いで成り立っている日々の生活そのもの、さらにはその様な中で自分が生きていることに対する感謝にまで広げることが必要である。そしてそれに応えて自分は何をすべきかを自覚できるようにし、進んで実践できるところまで指導することが求められている。さらに、自分の心の中の感謝の気持ちが相手の心に届き、潤いのある人間関係が築かれるものであることを自覚できるようにすることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

黄熱病にかかり、死の床で感謝の気持ちを述べる英世の思いを考えることを通して、日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し、それに応えようとする道徳的心情を豊かにする。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される児童の反応	指導上の留意点
導入	・ 野口英世について知る。	野口英世を知っていますか。	・ 千円札を準備する。 ・ 野口英世の生い立ちや業績、黄熱病について簡単に触れ、教材への解説的導入を図る。
展開	・ 教材を読む。		・ 発問に入る前に英世が世界的に注目される医学者になっていたこと、病気が重なっていたことをおさえる。
	・ 多くの人々の支えを思い出す英世の気持ちを考える。	英世は、どんな気持ちから目頭が熱くなったのでしょうか。 ・ 幼い頃から色々なことがあったな。 ・ 多くの人に支えられてきたな。 ・ ありがたい。 ・ みんなのおかげで今の自分がある。 ・ 周りに甘えているだけで、まだ十分に周りの期待に応えていない。	・ 英世がここまでになったのは自分ひとりの力だけではなく、たくさんの人々の支えがあったということに深く感謝している気持ちを十分に出させる。
	・ 周りの心配を振り切って決断したときの英世の心情を考える。	エクアドルへ行くとき「ぜひ、行かせてください。」と答えた英世は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・ じっとしていられない。 ・ 今度こそ人々を助けて恩返しをしたい。 ・ 自分の体のことより人々を救いたい。	・ 題名に立ち返り、なぜそこまでして黄熱病とたたかったのかを考えさせる。 ・ 決断を後押ししたのは「感謝」の気持ちであることに気付かせる。
展開	・ 死の直前の英世の気持ちを考える。	高い熱にうなされながら「みなさんのおかげです。」と言った言葉には、英世のどんな思いが込められているのでしょうか。 ・ 研究ができて満足だった。 ・ みんなのおかげで研究ができた。 ・ 支えてもらって本当にありがたう。 ・ 私の人生は幸せだった。 ・ やっと恩返しができた。 ・ 恩返ししようと一生懸命に生きた。 ・ 支えてもらったことに応えようとした。 ・ 人のために役立とうと頑張って生きた。 ・ できることはやりきった。	・ 黄熱病にかかってしまったが、多くの人に支えられた感謝の気持ちとそれに応えようと思えることができた満足感でいっぱいだったことに気付かせ、ねらいに迫る。 ・ 墓碑の言葉から後世に英世の気持ちが人々に伝わり、感謝の気持ちが人と人をつなぐことにも触れる。
終末	・ 本時の学習を振り返り、出会った価値を深める。	・ 「私たちの道徳」のことに触れ、道徳的価値をさらに深めさせる。 「支えてくれる その思いを感じよう」 「支えてくれる その思いにこたえよう」	・ 支えられていることに対してどんなことを感じているかなど、道徳的心情を豊かにすることにつなげる。

評価の視点（例）

- 人々の支え合いや助け合いで日々の生活が成り立っていることに感謝し、自分は何をすべきなのかについて考えたり発言したりするなど、自己を省みる様子が見られる。